

熊本との気球の絆重視

上士幌町、県にふるさと納税還元

復興願い異例の支援

【上士幌】町は、震度7の地震に2回見舞われた熊本県に対し、昨年度のふるさと納税として県民から寄付された約660万円を超える支援額を同県に還元する。寄付者の多くが被災したとみられることや、「北海道ハルーンフェスティバル」などで20年以上にわたり熱気球を通じて強めてきた熊本との絆を重視。全国的にも異例の支援に乗り出し、復興の一助にしてみようと考えた。(佐藤志穂)

支援総額は約770万円。援金500万円を贈る。残り秋に熊本県で熱気球の体験で、竹中貢町長が6月下旬には、被災者を町営住宅に搭乗会を初めて開いたりすにも県庁を訪問し、まず義理で受け入れたり、今年も費用に充てる計画だ。

熊本との縁は、毎年8月に町内で開催されるハルーンフェス。熊本市の熱気球チーム「JAPPLE(ジャップル)」が20年以上参加し、交流を深めてきた。ジャップルには、2014、15年にフェスの競技委員長を務めた龍野幸敏代表(63)＝熊本市在住＝や、フェスのオフィシャルバルーンを操縦する広田明さん(69)＝同＝らが所属。参加するだけでなく運営も支えてきた。町は、県民からのふるさと納税に加え、フェスを通じた絆への感謝と熊本復興への願いを込めて、今回の支援を決めた。

義援金500万円は、被災地での子育てや教育支援に活用してもらう考えだ。町はふるさと納税を活用して、認定こども園の利用料を10年間無料にするなど、子育て支援に力を入れている。寄付した熊本県民からもこうした町の理念に共感する声が多かったという。今回の還元は寄付金ではなく、町民税など一般財源を充てるのは、県民の思いに配慮したためだ。

寄付制度に詳しい大阪大学大学院の山内直人教授(公共経済学)は「ふるさと納税の寄付金を復興支援として還元するのは全国的にも極めて珍しく、意義深い」と話している。町は24、25日に開かれる町議会の委員会で今回の支援策を報告する。

北海道新聞

2016年
5月23日
月曜日

発行所
北海道新聞社
〒060-8711 札幌市中央区大通西3丁目6
電話011-221-2111
dd.hokkaido-np.co.jp
読者センター
011-210-5888
(日曜・祝日除く9時～18時)
ご購読申し込み
0120-464-104
3ムヨドーン

上士幌町 ふるさと納税熊本復興に還元

【上士幌】ふるさと納税寄付額が全道一の十勝管内上士幌町は、地震に被災した熊本県の復興につなげようと、県民からの昨年度の寄付額約660万円に相当する分の支援を県に行う。竹中貢町長が6月下旬にも県庁を訪れて義援金500万円を贈るほか、町内に被災者を受け入れることなどを予定している。

【北海道ハルーンフェスティバル】に県内チームが20年以上参加するなど、住民同士の交流が続いている。町は、県民からの寄付全額を還元する形で、復興への思いを伝える。

これらにかかる総額770万円は、ふるさと納税の寄付金でなく、地方交付税や町民税など一般財源から充てる。町は、ふるさと納税を活用した子育て支援に取り組んでおり、県に対しても、義援金を被災地での子育てや教育支援に活用してもらうよう要望する。

上士幌町への昨年度の寄付総額は15億3655万円。このうち熊本県民292人から658万55万円が寄せられた。大半は震度6ク

ラスの地震に4回見舞われた熊本市民。震度7に2回襲われた同県益城町の住民もあり、被災した寄付者は少なくないとみられる。「熱気球のまち」として知られる上士幌町と熊本県は、毎年8月に町内で行われている熱気球大会「北海道ハルーンフェスティバル」

をを受け入れ、来年3月末まで町営住宅を無料で貸し出す。今年秋には熱気球の体験搭乗会を県内で開き、熊本市の熱気球チームと協力して被災した子供たちに乗ってもらう。